

[要旨]

中国西北部でダウン症のある子を育てる母親の「成熟」

奈倉 京子

本稿は、中国西北部でダウン症のある子を育てる2人の母親のライフストーリーを記述し、「成熟」[プラス1985=1980]という観点から分析を行なうことを通して、障害の受容の局面だけでは捉えきれない一人の母親としての成長と人格形成のプロセスを考察することを目的とする。

ライフストーリーを分析することにより、年齢の異なるダウン症のある子どもを持ち、階層差のある2人の母親が、障害のある子の母親であることを自身の人生の中でどのように位置づけ、どのような他者と関係しながら自己イメージを形成しているのかということについて考察した。

考察により、2人は障害のある子の母親になることを着地点とするのではなく、むしろ一人の女性としてキャリア追求をすることや、平凡な母親になろうとする生き方が目指されていることが明らかになった。プラスの提唱した「成熟」は、親密な関係にあり、かつ長い時間をかけて付き合う、文化的な他者との相互行為が重要であった。これに対し2人の「成熟」は、「親密な他者」「親密でない／一過性の他者」「ローカルな文化的価値観をもつ他者」と「グローバルな視野・知識をもつ他者」の複層的な他者との相互行為を通して「障害者の母親」から解放されることであるといえる。